

# 実 技



## 発航前の点検

### 特殊小型 発航前点検 点検項目

#### A エンジン

1. ビルジ (内部にたまった汚水)
2. 燃料油量 (ガソリンの量)
3. 水分離器
4. 燃料タンクキャップ
5. エンジンオイル
6. バッテリー
7. 緊急エンジン停止コード
8. 燃料コック
9. 燃料フィルター
10. 冷却水量

#### B 法定備品・書類

1. ライフジャケット
2. 笛 (音響信号器具)
3. 信号紅炎 (遭難信号具)
4. 係船ロープ (船をつなぐロープ)
5. 船舶検査証書
6. 船舶検査手帳
7. 船舶検査済票および船舶番号

#### C 艇体

1. ハル (船体外板)
2. シート (座席)・ハッチ (物入れのふた)
3. ハンドルバー
4. スロットル (アクセルレバー)
5. シフト (リバースゲートを動かすレバー)
6. ジェットインテーク (船底の給水口)
7. ジェットノズル (噴射口)
8. ドレンプラグ (水抜栓)

試験ではA～Cの中からを**2種類ずつ (計6種類)** 指示しますので、適切な方法で**2分以内**で点検してください。

※艇によって装備されていないものもあります。

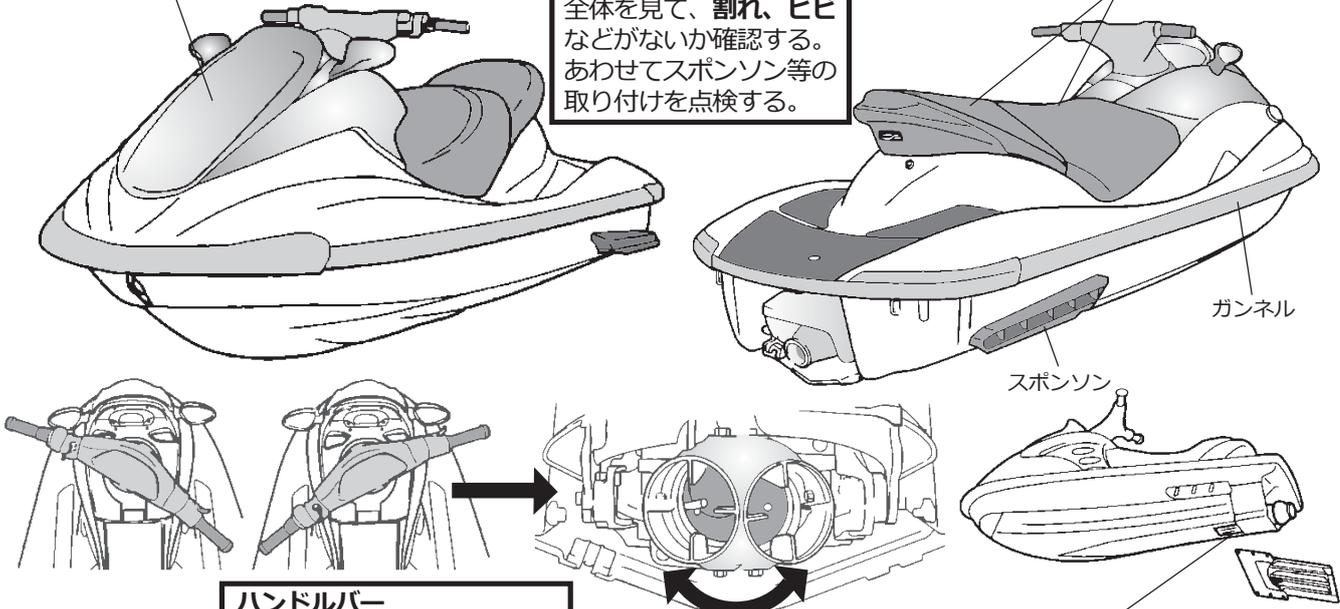
# 1. 船体の点検

**ハッチ**  
開けてハッチのパッキン等を点検して閉める。確実に閉まっていることを確認する。

- |            |              |
|------------|--------------|
| 1. ハル      | 5. シフト       |
| 2. シート・ハッチ | 6. ジェットインテーク |
| 3. ハンドルバー  | 7. ジェットノズル   |
| 4. スロットル   | 8. ドレンプラグ    |

**シート**  
ロックされているか確認する。はずしてある場合は、取り付けから、ロックを確認する。

**ハル (船体)**  
全体を見て、割れ、ヒビなどがないか確認する。あわせてスポンソン等の取り付けを点検する。



**ハンドルバー**  
数回動かしてみる。ステアリングノズルが動くか確認

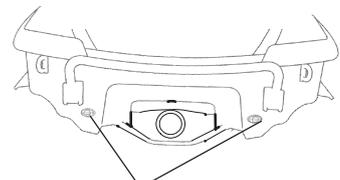
**ジェットインテーク**  
トレーラーの下からのぞいて異物がないかどうか確認

**シフト**  
レバーを数回動かしてみる。リバースゲートが動くか確認

**ジェットノズル**  
異物がないかどうか確認

**スロットル**  
動かして、ひっかかりなどがないか確認

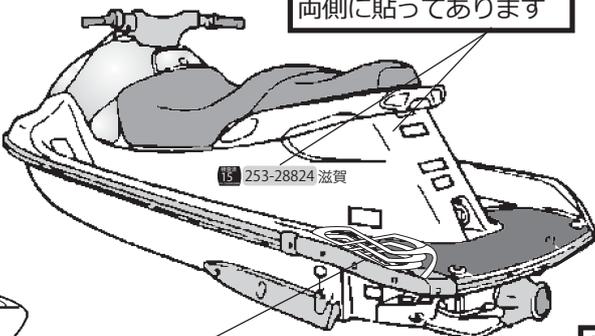
**ドレンプラグ**  
両方とも閉まっているか確認



# 2. 法定備品・法定書類の点検

1. ライフジャケット
2. 笛(音響信号具)
3. 信号紅炎
4. 係船ロープ
5. 船舶検査証書
6. 船舶検査手帳
7. 船舶検査済票、船舶番号

船舶検査済票/船舶番号  
両側に貼ってあります



**笛 (音響信号具)**  
救命胴衣の中にあります

**信号紅炎**  
期限が切れていないか確認

**係船ロープ**  
傷んでいないか確認

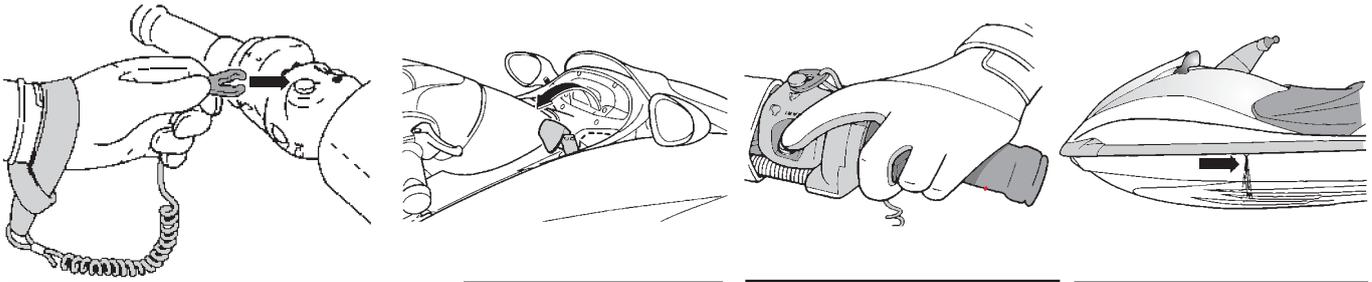
船舶検査証書・船舶検査手帳  
検査の有効期限、船舶検査済票の番号とあっているか確認。

**ライフジャケット**  
定員分の数が揃っているか確認。バックル等に損傷がないか確認。認定品であることを確認。



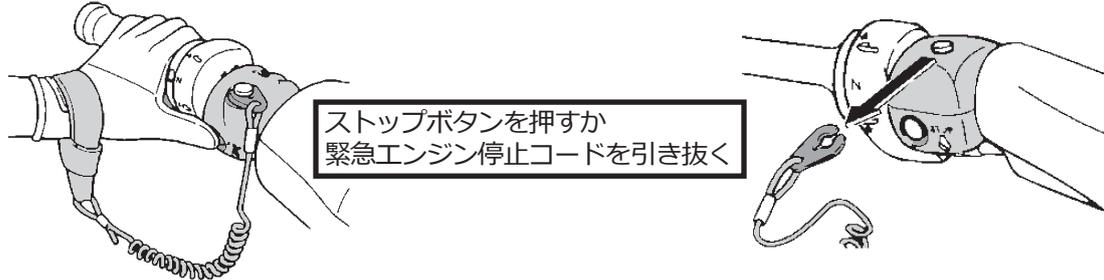


### 1.エンジンの始動



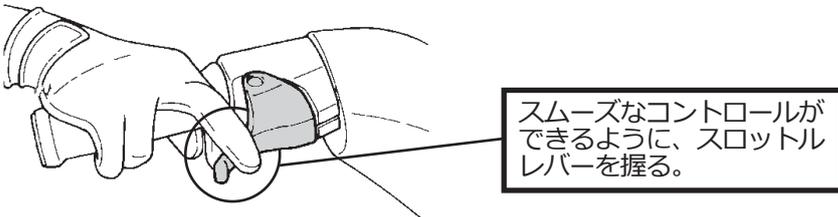
- |                             |                    |                       |                                                   |             |
|-----------------------------|--------------------|-----------------------|---------------------------------------------------|-------------|
| 1.緊急エンジン停止コードを手首か救命胴衣に取り付ける | 2.緊急エンジン停止コードをつなげる | 3.シフトレバーがある艇はリバースに入れる | 4.水深や水面に浮いている危険なゴミの有無と、周囲と同乗者の安全を確認してからスタートボタンを押す | 5.冷却水の循環を確認 |
|-----------------------------|--------------------|-----------------------|---------------------------------------------------|-------------|
- ※水面に浮いているビニールやロープをジェットポンプ内に吸い込むと航行不能になることがあります。

### 2.エンジンの停止

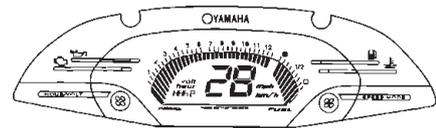


ストップボタンを押すか緊急エンジン停止コードを引き抜く

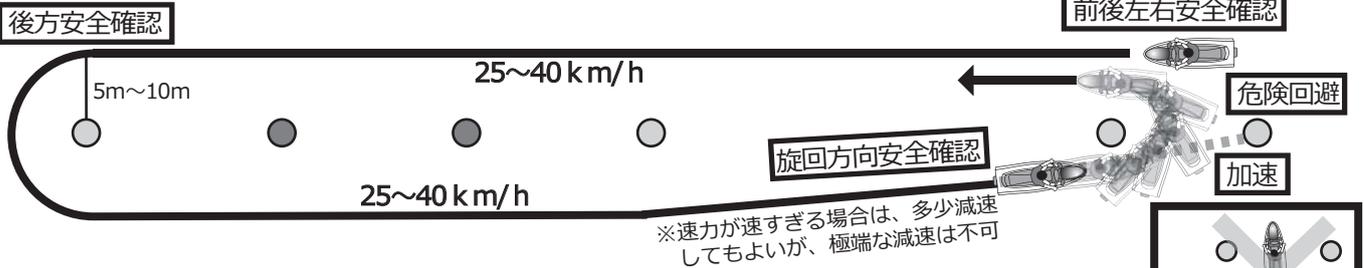
### 3.直進・旋回・危険回避（コース1）



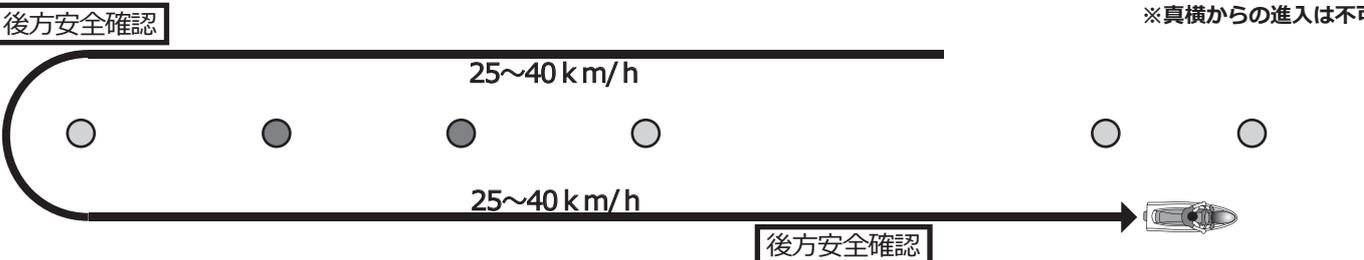
スムーズなコントロールができるように、スロットルレバーを握る。



- ①危険回避ブイ横より周囲と同乗者の安全確認後、発進する。
- ②すみやかに**25 km/h以上**の速度で直進。
- ③**後方の安全を確認**して最後のブイをまわる。(転舵による自然減速はいいが、極端な減速は不可)
- ④旋回方向の安全を確認し、危険回避ブイに進出し、スロットル操作(加速)、ハンドル操作、体重移動を同時に行い、ブイをすり抜け、そのまま直進。

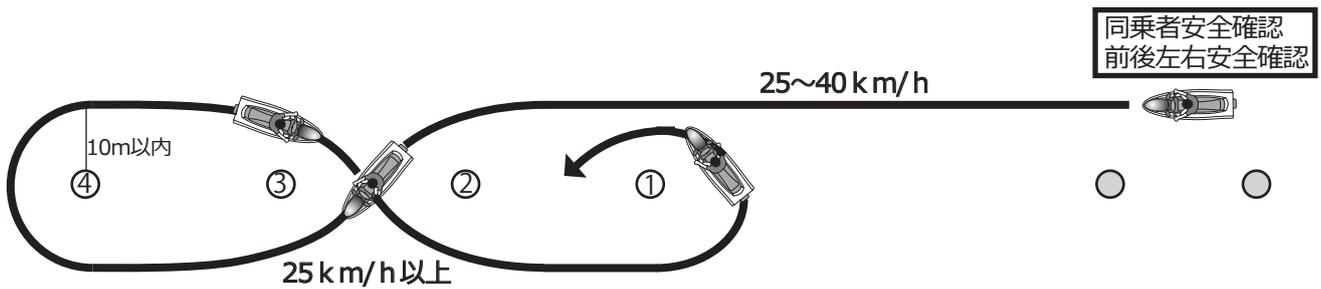


- ⑤もう一度最後のブイをまわる。
- ⑥スラロームブイを過ぎたら後方の安全確認をして**危険回避ブイの横**で停止。



## 4.8の字巡回・連続巡回（コース2）

- ①危険回避ブイ横より周囲と同乗者の安全確認後、発進する。
- ②すみやかに25 km/h以上の速度で直進。
- ③2番ブイと3番ブイの間を通過して8の字巡回を開始する。
- ④4番ブイをまわったら、もう一度2番ブイと3番ブイの間を通過して1番ブイをまわって、連続巡回にはいる。

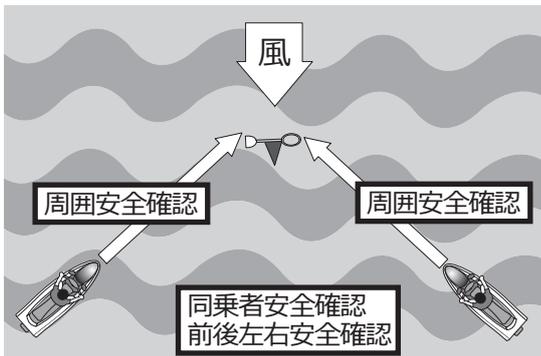


- ⑤ひとつずつブイを連続巡回しながら往復する。
- ⑥最後の1番ブイをぬけたら、後方の安全を確認して危険回避ブイの横で停止。



## 5.人命救助

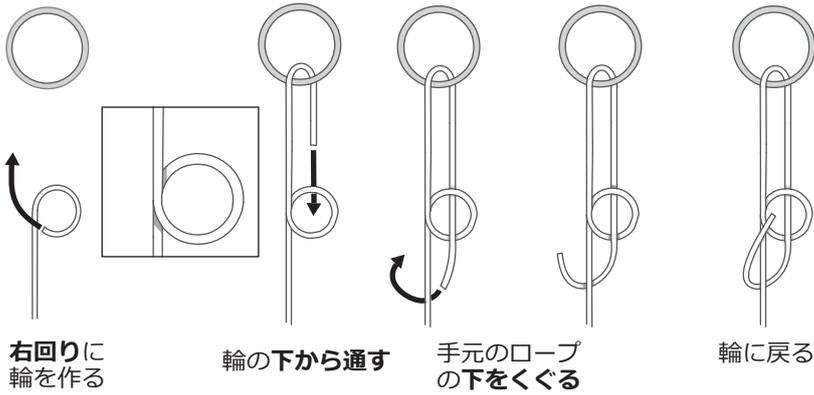
- ①肩を叩く等の停止の指示があったら、後方の安全確認後、すみやかに停止する。
- ②人に見立てたブイの位置を指示するので、周囲と同乗者の安全確認後、救助に向かう。
- ③救助に向う最中にも、周囲の安全確認を怠らないこと。
- ④必要なら直前でエンジンを停止、またはリバースにに入れて、ブイを拾いあげる。（左右どちらでも可）



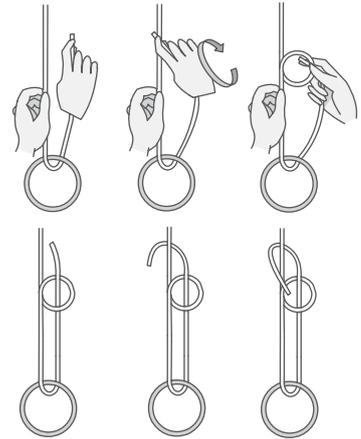
## 6.注意事項

- ①リバース(後進)に入れて、エンジンを始動すること。
- ②走行は25~40 km/hで行うこと。（直線で25 km/h未満の走行を続けると走行失敗）  
（40 km/hを大幅に超えた速力で走行すると、安全のために停止させる場合があります。走行失敗）
- ③コースを間違えないこと。（走行失敗。ただし停止位置のブイの左右は含まない）  
（極端に減速した巡回、危険回避時の「横入り」、操縦者・同乗者の落水、走行中の過度のふらつき、コースからの大幅な逸脱も走行失敗とみなします）
- ④ブイに接触しないこと。（走行失敗。ただし危険回避時の船尾の軽微な接触は除く）
- ⑤安全確認を怠らないこと。
- ⑥常に同乗者の安全に注意して操縦すること。（コース走行でなくとも発進時には同乗者の安全を確認すること）
- ⑦停止の指示があったら、すみやかに停止すること。
- ⑧ブイはできる限り左右等間隔にリズムカルに回ること。
- ⑨極端な増減速は慎むこと。（スムーズなスロットル操作で走行すること）
- ⑩危険回避時の極端なスロットル操作は慎むこと。

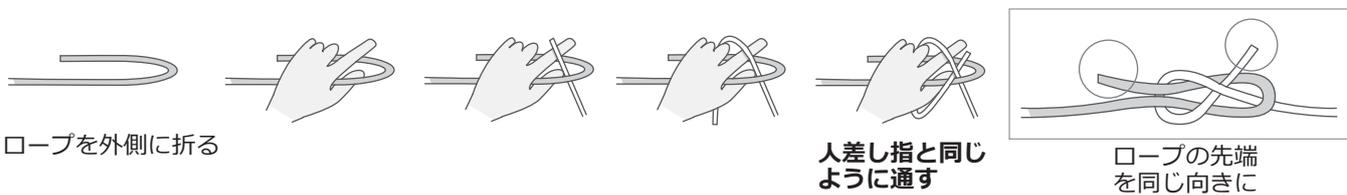
## 1. もやい結び リングなどに結索する方法



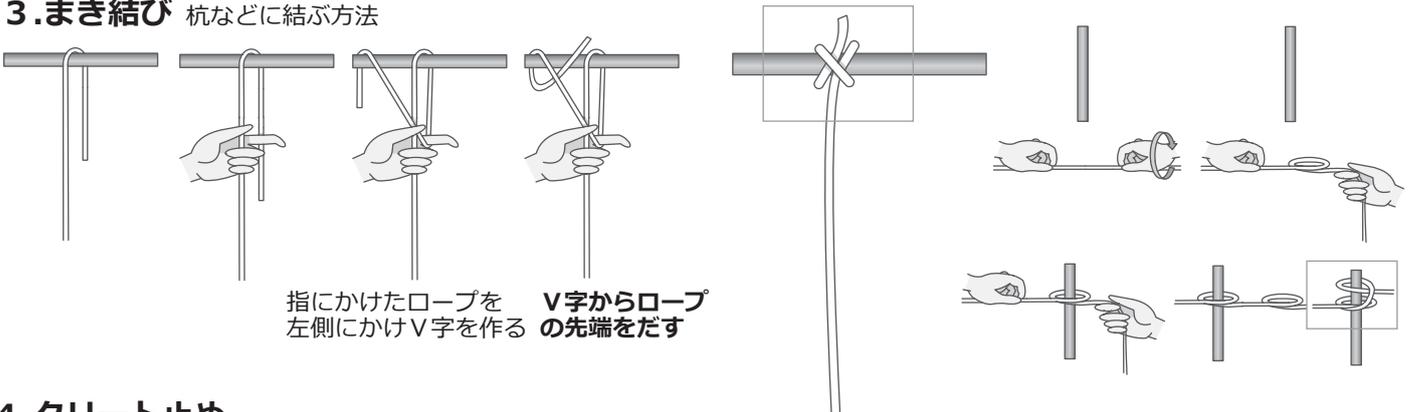
### 逆方向からのもやい結び



## 2. ひとえ(一重)つなぎ 太さの異なるロープをつなぐ方法



## 3. まき結び 杭などに結ぶ方法



## 4. クリート止め



## ロープワークについて

1. 試験場所の係船具に**30秒**で結びます。
2. 結索(ロープワーク)の科目では結び方ではなく、**完成した結びが正しいかどうか**を採点します。
3. 上記の中からひとつを指示されます。
4. ひとつのロープワークで複数の結び方を覚えるのではなく、**確実にできる方法を覚えてください。**